

第74回

日文研学術講演会

# 磯前順一教授 退任記念講演会



受講料

入場無料

定員

500名(抽選)

2026年3月6日(金) 14:00-16:15(開場13:30)  
国際日本文化研究センター内講堂

詳しくは裏面を  
ご確認ください

磯前 順一(日文研 教授)

『見るなの禁』の呪いを解く  
— 1982年の  
河合隼雄と北山修

中丸 貴史(日文研 准教授)

日記の愉しみ



# 第74回日文研学術講演会

The 74th Nichibunken Public Lecture

挨拶

井上 章一

国際日本文化研究センター 所長

司会・趣旨説明

松田 利彦

国際日本文化研究センター 副所長

講演



中丸 貴史

国際日本文化研究センター 准教授

日記の愉しみ

毎日が楽しい。なぜかと考えると、どうも自分の研究の恩恵をまず自分自身が受けているからだ気がついた。いやむしろ、自分が楽しいと思うことが研究（ライフワーク）になっているというべきかもしれない（自分が楽しいと思うことは、必ずしも他人が楽しいと思うわけではないということも重要である）。自分の幸福をあまり他人に言うもんじゃないという人もいる。だが、学問は第一にそれぞれの幸福のためにあると思うし、なにより私だけのものではないのだ。学者にはそれを発信する責任がある、と私は思う。今回は文学研究、とくに日記を通して、その視点と方法を紹介しつつ、現在における意義について考えてみたい。対象は平安朝の日記・古記録ということになるが、あくまでも材料であって、視野としては、日記から今、そして未来を考えるというところにあることを強調しておきたい。



磯前 順一

国際日本文化研究センター 教授

『見るなの禁』の呪いを解く

—1982年の河合隼雄と北山修

世界は幻想にすぎない。しかしその幻想は心的幻想として私たちを縛る。フロイトが原光景と呼んだトラウマ、組織における共同幻想もまた同じである。人はそこから長い時間をかけて解き放たれることを学問の目的とし得る一方で、被害妄想や共同幻想に殉じる道を選ぶこともできる。本発表は、この根源的課題を、日文研二代所長の河合隼雄と精神分析家にしてフォーククルセダーズ元メンバー北山修が、同じ1982年に論じた「見るなの禁」の議論を手がかりに考察する。両者の思索を通じて、報告者自身の人生経験をも踏まえつつ、幻想に囚われることとそこから解放されることの可能性を検討する。

日時・場所

2026年3月6日(金) 14:00~16:15 (開場 13:30)

国際日本文化研究センター内 講堂 入場無料・定員 500名 (抽選による)

※本講演につきましては、当日のオンライン配信はいたしません。

申込方法

①イベント名 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所  
④電話番号(日中ご連絡が取れるもの) ⑤メールアドレスを明記のうえ、申込フォームまたはハガキのいずれかにてお申し込みください。  
申込者多数の場合は、抽選を行います。

※複数名で参加ご希望の方は、全員分の必要事項①~⑤が必要です。  
※抽選結果は、当落にかかわらずハガキにてお知らせいたします。(2026年2月下旬発送)  
※お預かりした個人情報は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構関連事業や日文研が開催するイベント及び活動等のご案内に使用いたします。

申込締切:2026年2月6日(金) 正午必着

※今後ハガキでのご案内を廃止する予定です。お申し込み時にはメールアドレスの記入・入力をお願いいたします。

お申し込み・お問い合わせ

国際日本文化研究センター 総務課広報係

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町 3-2

TEL: 075(335)2046 E-mail: forum@nichibun.ac.jp

申込フォーム: <https://forms.office.com/r/GAXiCGKfKf>

【申込フォーム】



アクセス

無料送迎バスはございませんので、公共交通機関をご利用ください。

交通手段 桂塚中央行きのバスにて「桂塚小学校前」又は「花の舞公園前」下車

- 阪急桂駅西口: 市バス 西5・西6(約30分)、京阪京都交通バス 20・20B(約20分)
- 阪急桂駅東口: 京阪京都交通バス 26(約20分)
- 阪急洛西口駅: ヤサカバス 1・6(約20分)
- JR 桂川駅: ヤサカバス 1・6(約30分)
- JR 京都駅: 京阪京都交通バス 21・21A・26(約45分)

※お車でのご来場は近隣へのご迷惑となりますので、お断りしております。移動や聴講などについて特別な配慮が必要な方は、事前にご相談ください。

